

Q ホークスファーム本拠地誘致を問う

A 誘致は市民の一体感の醸成にもつながる

中島 秀樹 議員

質問項目

- 1 福岡ソフトバンクホークスファーム誘致について
- 2 朝倉市発展のシナリオについて
- 3 「こんにちは市長室」について



Q 福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地が朝倉市に来たら、どんなメリットがあるのか。

A 大きな地域活性化が見込める。経済効果として、まず拠点球場の建設がある。次に球場や周辺施設の管理・運営がある。観客によ

る売上げ増加や観光地への回遊も期待できる。さらに朝倉市の知名度が上がるほか、選手との交流を通して子どもたちに夢を与えるなど活性化効果も見込める。

Q もっと早く手を挙げるべきと市民から意見が出ている。なぜ、遅くなったのか。また、朝倉農業高校跡地への誘致は唐突ではないか。

A そもそも8月3日の新聞発表から始まったので、唐突だと思うのは当然だ。しかし、責任を持って十分に検討した結果、朝農跡地への誘致を決めた。成功すれば、朝倉市にはソフトバンクホークスのファームがあるという共通認識ができる。これは市民の一体感の醸成にもつながる。また、跡地活用について、



朝倉市がひとつになった

Q 平成24年度決算では、図書購入費1万6953冊で、2千399万5千円だった。その中で雑誌は、中央図書館133冊、朝倉館73冊、杷木館33冊の合計239冊で209万4千円となっている。「雑誌スポンサー制度」は、雑誌の購入



村上 百合子 議員

質問項目

- 1 福祉行政について
- 2 雑誌スポンサー制度の導入について
- 3 環境・温暖化対策について

代金を企業や医療法人、福祉法人等に雑誌スポンサーとして負担して頂き、その雑誌を図書館の雑誌コーナーに配架する。そして、提供雑誌のカバー表紙にスポンサー名を、裏面に広告を表示して、図書館利用者の閲覧に供するという制度で、予算削減に悩んでいる地方自治体の図書館がその打開策として2008年より始められた制度である。朝倉市においても、負担軽減の為に早急な導入をして頂きたい。

A 県内の市町においても、「雑誌スポンサー制度」導入が進んでおり、市民の多様なニーズに応えるために来年年度導入に向けて検討していきたいと考えている。

ポイント制の健康マイ
レージ事業の導入を

Q 市民が、日頃から自分の健康のためと特定健診の受診や健康増進のためのスポーツ活動などに参加した場合に、ポイントを市が与えてポイントを達成できると公共施設利用券などに換金できるという「健康マイレージ制度」が取り組まれている。市民の健康意識向上のためにも、推進して頂きたい。

A 市では、様々な健康づくり事業を取り組んでおり、「健診受けたら当たるばい！」キャンペーンを今年度実施している。更なる効果のある事業として煮詰めたいと考えている。



多くの雑誌を
楽しんで読もう

Q 雑誌スポンサー制度の導入で図書費捻出を

A 多様な市民ニーズに応えるために導入したい

Q 有害鳥獣残渣処理施設を広域で建設できないか

※さんさ

A 必要な施設であると思っている

堀尾 俊浩 議員

質問項目

- 1 有害鳥獣対策について
- 2 教育についての取り組み
- 3 国道322号線八丁トンネルの件
- 4 地域おこしの件



Q 6月27日に、議員有志

市職関係者18人で宗像市の有害鳥獣加工処理施設を視察したが、朝倉市と同様に有害鳥獣の被害に悩まされ、残渣処理を主目的とした処理施設を建設し、今年2月より運営している。筑前町、東峰村と広域で是非取り組

んでいただきたい。

A 必要な施設と思っている。ただし、コストの事もあり東峰村、筑前町と一体となって研究していく。

Q 朝倉市における小中一貫教育について尋ねる。

A 中学校区ごとに地域の特色、あるいは実態を考慮したうえで地域の皆様と協議して、各地域に適した学校づくり、小中連携、小中一貫教育を進めていく。また秋月校区は準備委員会を設置し、地元と進めていく。

Q 安川、秋月、上秋月の3地区は今からが旬で熱い地区である。①来年の大河ドラマ「軍師官兵衛」②小中一貫教育のモデル地区を目指す③新郷土館建設が予定され、秋月の新しい観光資源となる。国道322号線八丁トンネルの開通に伴

い交流人口の大幅な増加が見込まれる等々が挙げられる。これをビジネスチャンスと捉えて道の駅を3地区内に開設することを提案する。福祉、定住促進、雇用創出、地域産業の振興に十分なメリットがある。また、市内観光地への誘導もできる。

A 前向きで、素晴らしい提案である。小石原川ダム of 地域振興策が協議されている地区もある。その推移も関係してくるが、諸問題をクリアする必要もある。



宗像市にある有害鳥獣加工処理施設

Q 朝倉市が子育てしやすいためには、どんなまちづくりを目指しているのか。

A 今年度から地域のコミュニティに向いて、「出張つどいの広場」にも積極的に取り組んでいる。

Q 子育て支援センターの



大庭 きみ子 議員

質問項目

- 1 安心して子どもを産み育てられるまちづくり

Q 杷木や秋月にも子育ての核となる子育て支援センターが必要ではないか。また、社会福祉協議会と連携し、地域の中で子育てサロンを立ち上げる支援をしていただきたい。

A 新しく子育て支援計画が出来るので、その中で検討していきたい。

Q ファミリーサポートセンターの充実や今後の運営について尋ねる。

A つどいの広場と一体にできないか、研究中である。

Q その利点をPRして、利用料の検討や、必要な人にサービスをつなぐことが

重要である。子育て支援総合コーディネーション機能を強化するべきではないか。

A 多くの方に認知してもらい、利用してもらうようにしていくべきだと思う。

Q 子どもの医療費を小学校6年生まで無料にできないのか。また、3人目の保育料を無料にするなど、経済的支援を考えてほしい。

A 担当課で検討した結果、無理だという結論になった。



甘木地域センターにある「にこにこ広場」

Q 朝倉市の目指す子育て支援について

A 結婚して子育てしやすい環境を作っていく

Q 小中一貫教育は、市民との合意形成が必要

A 今後市民の意見を伺いながら決定していく

平田 梯子 議員

質問項目

- 1 朝倉市がめざす小中一貫教育を問う
- 2 いじめ防止対策推進法と子どもにやさしいまちについて



Q 杷木地域の小中学校のあり方を考える会から、望ましい小中学校のあり方の杷木地域の合意形成についての報告が、8月26日に教育委員長宛に提出があった。9月5日の新聞報道までの経緯を確認する。

A 8月29日に教育委員会

の方針を出し、当日市長に意見書を提出した。

Q 新聞報道までに議会の全員協議会や、杷木地域の協議会に報告する必要性を考えなかったのか。杷木地域住民の合意形成に至るまでの日々の取り組みが非常に軽んじられて、住民の不信感を抱いた。

A 教育委員会や市が決定したことについては、地域へ報告していくと話してきたが、全員協議会や地域に話をする前に新聞記者から取材を受け、教育委員会が対応し、翌日新聞に載った。大変ご迷惑をかけたことをお詫びする。

Q 新聞で報道されると、住民にはそれが真実だと思われがちである。記者会見ではなく、ある職員が、記事を書いてもらったという

ことはもっと謹むべきことではないか。

新聞記事にある市長への意見書の最後は「望ましい。」と述べてあるが、これは「決定」ではないと理解してよいのか。

A 「望ましい。」は教育委員会の方針であつて、今後住民の意見を伺いながら決定していく。

行政として市民との信頼関係の中で物事を進めていくことは一番大切なことだ。市長部局も支援、協力をしていい学校をつくっていく。



意見書では杷木中敷地内に建設とあるが

Q 市長はいつこの移転計画を承知したか。

A 8月3日の新聞だ。

Q 2011年3軍設置でファームの移転が計画されていたが。

A 承知していなかった。発表後、既に情報を入手し、準備していた10数の



実藤 輝夫 議員

質問項目

- 1 地域活性化のための施策

Q ホークス球団誘致へこれまでと今後の対応は

A 誘致表明が遅くなったが、全力を尽くしたい

市町が素早く手を挙げたが。A 知らなかったことが怠慢であれば、甘んじて受ける。

Q その後の対応は。

A 市職員に情報収集と朝倉市内に合致する土地がいくつあるか選定させた。

Q 朝倉市には朝農跡地という最適地があるのに、約7万㎡(約2万坪)の民有地を40日余りで確保できると本気で思ったのか。

A 朝農跡地はこれまでのいろいろな経過があった。

Q 全ての候補地が何らかの問題を抱えている。どの市町も誘致実現に向けて素早く同時併行に解決している。問題はここを越えて今も誘致プロジェクトができていないことだ。市長を中心に議会、外部団体、専門家、市民参加のプロジェクト

A 遅かったかもしれないが、今準備し、共にやりたい。



ソフトバンクホークス誘致の夢をのせて